



「日本の豊かな暮らしを支える北海道農業の持続的な発展」 国営農地再編整備事業 南長沼地区」

国土交通省北海道開発局
札幌開発建設部札幌南農業事務所

はじめに

令和6年3月に閣議決定された、第9期北海道総合開発計画では北海道のポテンシャルを活かし、「我が国の豊かな暮らしを支える～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」が主要施策の一つに位置付けられています。その実現に向け、「我が国を先導する農林水産業の強化」を施策の基本的方向として掲げるとともに、「地域特性に応じた高効率・高品質生産を可能とする農業生産基盤及びデジタル基盤の整備」や「担い手への農地集積・集約化の加速化と優良農地の確保」に重点的に取り組むこととしています。

また、新たな食料・農業・農村基本法の下、初動5年間（令和7～11年度）は「農業構造転換集中対策期間」と位置付けられ、農地の集積やスマート農業導入による生産性向上を図るため、農地の大区画化などが推進されています。

本稿では、令和7年度に完了した国営農地再編整備事業「南長沼地区」を取り上げ、農地の大区画化を契機とした地域の生産性向上や農業経営の効率化に向けた取組について紹介します。

1 南長沼地区の事業概要

長沼町では、水稻を中心に、小麦や豆類などの土地利用型作物に加え、収益性の高い野菜も栽培する複合経営が行われています。しかし、南長沼地区では、農地が小さく、また排水条件が悪いことに加え、農地が分散していたため、農作業の効率化や機械の共同利用に支障が生じていました。



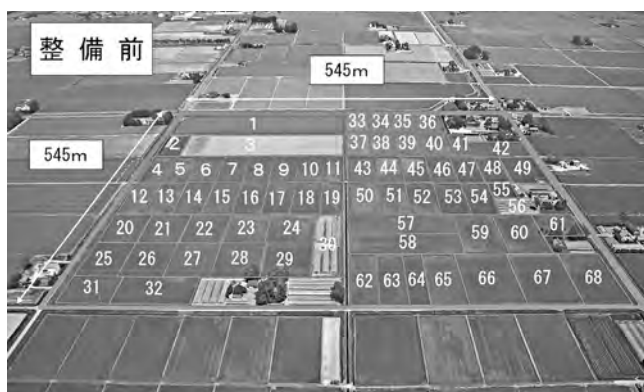
南長沼地区の全景

このため、本事業では場の大区画化や暗渠排水の整備を行うとともに、担い手への農地集積を進めました。

- ・事業工期：平成23年度～令和7年度
- ・受益面積：1,550ha
- ・受益戸数：160戸
- ・主要工事：区画整理1,545ha、開畑 5ha
幹線用水路3条 L=7.7km

2 事業実施の状況

本地区のは場は、6割が50a以下の小区画は場でしたが、本事業により全体の9割以上のは場で1.0ha以上の大区画化が図られています。



1農区 整備前：68耕区



整備後：20耕区

3 事業実施の効果 ～生産性の向上～

(1) 作業時間の短縮

事業実施前は、は場が小区画で形状も不整形であったため、農作業の効率が低い状況にありましたが、大区画化により、農業機械の旋回回数が減少するなど機械の走行性が向上しました。また、排水改良も行った

ことで大型機械の利用が容易となり、作業効率の向上と作業時間の短縮が図られました。



図1 作業時間の短縮（札幌開発建設部調べ）

(2) 農作物の収量増加

暗渠排水などの整備により、農地の排水性が改善され、湿害の軽減や、作物の生育状況にあわせた適期の作業が可能となりました。その結果、農作物の収量増加の効果が現れています。

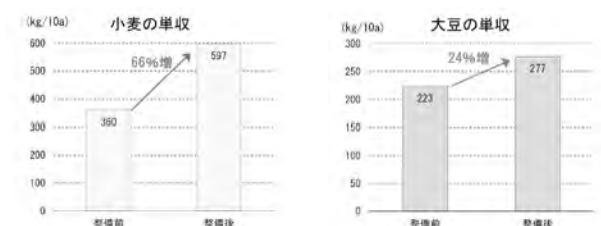
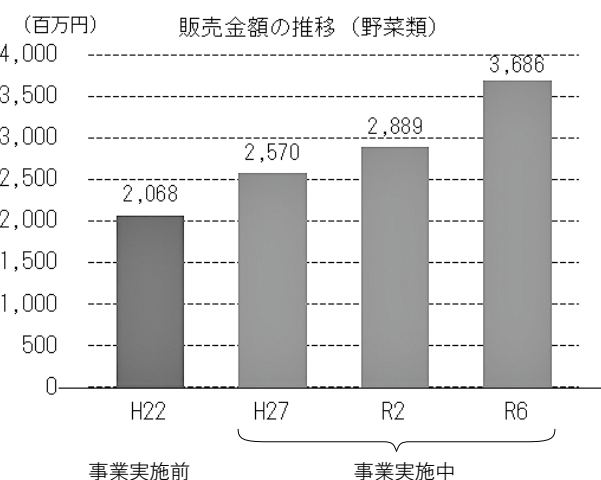
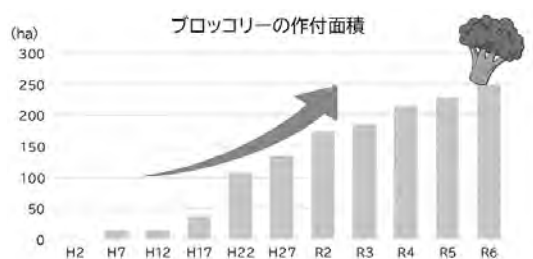


図2 農作物の収量（札幌開発建設部調べ）

(3) 販売額等の増加

本地区を含むJAながめまの農作物販売額の推移をみると、トマト、ブロッコリー、たまねぎなど野菜類の販売額が伸びています。特にブロッコリーは作付面積の増加が顕著で、台湾などへの輸出も行われています。





台湾のスーパーで陳列されている様子 資料：JAながぬま

4 事業実施を契機とした新たな取組

(1) ICT農業の取組

本地区では事業を契機として、ホクレンにより、RTKシステム（高精度の位置情報システム）の整備（基地局やサーバー等）が行われました。スマート農業・ICTの導入に向けた基盤が整備された結果、トラクターの自動操舵システムやドローンによる農薬散布等の取組が進んでいます。



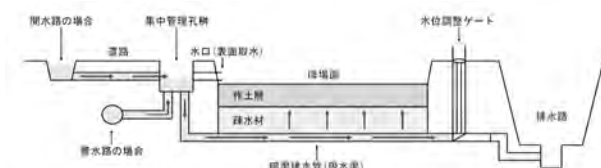
GNSSガイダンスによる耕起



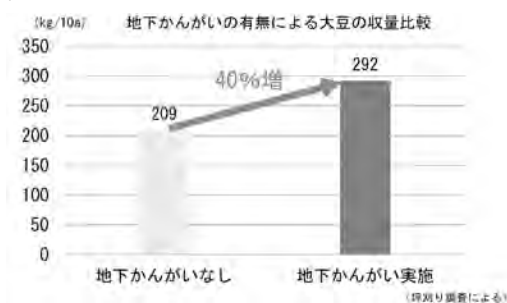
ドローンによる農薬散布

(2) 地下かんがいの取組

本地区では、用水路とほ場内の暗渠排水管上流部を集中管理孔柵で接続するとともに、暗渠排水管の下流部に水位調整ゲートを設置しました。これにより、作物が必要とする水分を根の近くで安定的に供給できるようになりました。



事業実施中の令和3年7月は降雨量が非常に少なく（7月降雨量4.5mm）、作物の生育上、厳しい状況にありました。地下かんがいを実施したほ場の収量は、実施しないほ場に比べ、大豆（ユキホマレ）の収量が4割増加したことが確認されており、地下かんがいの実施は、作物の生育環境の改善や安定生産に寄与しています。



地下かんがいなし

草丈40cm程度、着莢数20個



地下かんがい実施

草丈53cm程度、着莢数32個

南長沼地区資料より

当事務所では、受益農家から寄せられる疑問や、地下かんがい設備の操作・管理の留意事項について、長沼町土地改良総合センター、空知農業改良普及センター空知南西部支所と連携して「南長沼地区 地下かんがいの手引き（令和6年2月）」を取りまとめ、全受益農家に配布し、地下かんがいの一層の普及・定着に取り組んでいます。

(3) 地域の農産物の価値向上に向けた取組

本地区を含む長沼町では、野菜類のブランド化や販路拡大、農産加工品の開発に積極的に取り組んでいます。こうした取組の一環として、生産者とJAながぬまが連携して「N-STARプロジェクト」を立ち上げたほか、生産者組織「MOREベジット」が設立されるなど、地域農産物の価値向上に向けた活動が展開されています。

1) 【N-STARプロジェクト】

N-STARプロジェクトは、「野菜の未来を変える」をテーマに、長沼産農産物の新たな魅力を発信する取組です。

令和6年には、長沼産の白菜を使用した浅漬け商品「沼る浅漬」を産学連携により開発・販売しました。また、令和7年には長沼町産トマトを活用したクラフトジン「vegin tomato」を開発し、ふるさと納税返礼品としても活用されるなど、地域農産物の認知度向上に貢献しています。



沼る浅漬



Vegin tomato

2) 【MOREベジット】

MOREベジットは、JAながぬまの生鮮販売組織の再編・統合により、旧園芸組合連合会を母体として設立された生産者組織です。

産地ブランドのさらなる認知拡大を目指し、有名スープカレー店とコラボレーションし、長沼産ブロッコリーを店舗へ提供するとともに、店内でPRポスターを掲示するなど、地域農産物の魅力発信に取り組んでいます。



資料：JAながぬま

おわりに

昨今の農業を取り巻く環境は、担い手不足、気候変動、燃料や肥料価格の高騰など、大変厳しい状況にあります。一方で、食料・農業・農村基本計画（令和7年4月11日閣議決定）において、食料安全保障の確保に向け北海道農業への大きな期待が示されており、さらなる生産性の向上を図るため、農地の大区画化などを集中的かつ計画的に推進していく必要があります。

また、農林水産省は令和7年度からの新たな取組として、農業者自らが行う畦畔^{けいはん}の撤去などの簡易な基盤整備による農地の大区画化などを支援する「大区画化等加速化支援事業」を創設しました。

北海道開発局としては、地域農業の発展と地域の活性化につなげていけるよう、国営農地再編整備事業などの着実な推進に加え、関係者の皆様とともに新たな事業の普及促進にも取り組みながら、道内農業の持続的な発展に向けて取り組んでまいります。

※ 大区画化等加速化支援事業にご関心のある方はこちらをご覧ください。



大区画化等加速化支援事業概要



北海道大区画化等推進協議会ウェブサイト